

## 自主調査研究報告 [完了報告]

|   |     |       |
|---|-----|-------|
| <b>港湾におけるイベントと地域活性化に関する<br/>調査研究(継1B-1-③)</b> | 大分類 | 継1B   |
|   | 中分類 | 継1B-1 |

### 1. 目 的

港湾空間を活用したイベントにより、各地で地域振興や港湾と市民との親和感の醸成などを目的とした取組が行われている。個々のイベントを体系化してその取組を支える制度として「みなとオアシス」認定制度が制定され、道内の港湾でも稚内港を第1号に、網走港、江差港、苫小牧港、香深港、室蘭港、函館港、紋別港、鴛泊港など全9港が指定されている。

本研究では、港湾空間を活用した賑わいの創出による地域活性化を目的に、みなとオアシス等のイベント取組事例を分析し、イベントによる地域振興効果の検証を行うものである。また、この成果は、「北海道みなとオアシス活性化協議会」などで活用し、道内各地のみなとオアシス取組主体に情報提供等の支援をしていくものである。

### 2. 実施内容

平成27年度は、共同研究者の室蘭工業大学地域共同研究開発センターの古屋准教授の同行の元、みなとオアシス「りしりとう・おしどまり」、みなとオアシス「れぶん」で活動する代表者を対象に、設立までの経緯と活動資金、今後の課題についてヒアリングを行った。また、平成26年度に当自主研究で立ち上げた北海道みなとオアシスの各地域で活動する代表者を構成メンバーとした勉強会を開催し、ヒアリング結果の報告を踏まえ意見交換を実施した。

### 3. 調査結果

#### (1) みなとオアシス「りしりとう・おしどまり」ヒアリング結果



[http://www.wk.hkd.mlit.go.jp/port/portoasis/osidomari/index\\_od.html](http://www.wk.hkd.mlit.go.jp/port/portoasis/osidomari/index_od.html)

#### ① 設立までの経緯と活動資金について

- 利尻町のまちづくり総合計画のなかで、港湾とまちづくりの関係・位置づけを明確にした。(平成20年)
- 「鴛泊港長期構想検討調査」でフェリーターミナルの整備やみなとオアシス登録について検討した。(平成22年)
- 各組織の若い人、動ける人をメンバーにして「鴛泊港活性化協議会」をつくった。港湾に関連する協議会は利尻富士町では初めてで、実際の活動は役場が主体的に動いた。
- 必要経費(活動資金)は、町の補助金300,000円/年のほか、平成26年から3年分のまちづくり活動助成金(300,000円/3年)、みなとの文化振興機構助成金などを活用した。平成27年度は、地域活性化センターの助成金40万円に応募し獲得した。
- みなとオアシスエリアでの主な活動は、例



#### 4. 調査研究成果のまとめ

平成 24 年度～平成 27 年度にかけて調査した成果は次の通りである。

みなとオアシスの登録や活用については、港湾とまちづくりの関係を明確化し、その活用方法を具体化することで、関係者の役割や連携体制、資金調達の方法なども具体的に検討することができることが分かった。これは利尻富士町のように登録前に計画をつくれると、協議会メンバーの選定の面などでも配慮が可能となることが窺える。

新潟や稚内の例など、先に登録されたみなとオアシスの事例からは、地域内でのイベント実施や広報は、オアシスだけでなく多様な関係先と連携すると、人づくりや資金調達などが効率的効果的に実施できる可能性があることが分

かった。ただし、関係先と連携にはコーディネーター役がいなければ難しいといった課題もある。

活動資金の調達にあたっては、補助金の活用、民間企業との連携、シーニックやマリナビジョンとの連携などを積極的に活用することで資金集めの範囲が広がる可能性があることが分かった。

北海道では「新たな北海道総合開発計画中間報告」の中で「食」「観光」を戦略的産業としていく方向性が示されている。この方向性に基づいて北海道の特徴を生かしたみなとオアシスの活性化を図るためには、食や観光産業の振興、NPO 法人などへ委託、補助金などに関する情報の共有と獲得支援、支援組織の指定、みなとオアシスの一般市民や観光客の認知度 UP などを官民連携して進めて行くことが必要であると考えられる。